（別紙様式4）

令和6年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
日本工学院八王子専門学校	昭和62年3月27日	山野　大星	〒　192-0983 （住所）　東京都八王子市片倉町1404番地1他 （電話）　042-637-3111
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人片柳学園	昭和31年7月10日	千葉　茂	〒　144-8650 （住所）　東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 （電話）　03-3732-1111

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
工業	工科技術専門課程	一級自動車整備科	-	平成21(2009)年度	平成26(2014)年度

学科の目的	4年間の学習の中で二級自動車整備士よりもいっそう高度化した未来の自動車技術（EV・IT・機械）に対応できる高度整備技術/高度情報技術（IT）/環境保全技術/ものづくり力、そしてインターンシップや発表会などでプレゼンテーションスキルを始めとする社会人基礎力を習得したAI・自動運転技術がわかる"若きつくりびと"【一級自動車整備士】、すなわちミライのモビリティメカニックを育成することを目的とします。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	一級小型自動車整備士、二級ガソリン自動車整備士、二級ジーゼル自動車整備士、危険物乙四、電気取扱特別教育、ビジネス能力検定3.2級、損害保険募集人試験基礎単位、アーク溶接、ガス溶接、MOS（Excel,Word）、第二種電気工事士、3次元CAD利用技術者2級 中退率：0.0%

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	4,236 単位時間	984 単位時間	192 単位時間	3,060 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
100 人	51 人	0 人	0 %	0 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	:	20 人
■就職希望者数 (D)	:	19 人
■就職者数 (E)	:	19 人
■地元就職者数 (F)	:	12 人
■就職率 (E/D)	:	100 %
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)		63 %
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)		95 %
■進学者数		0 人

■その他

（令和　　5 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和5年度卒業生）

スズキ㈱、㈱スズキ自販南東京、㈱ホンダ東京西、神奈川トヨタ自動車㈱、㈱村内外車センター、㈱イー・ビー・アイ・マーケティング、東京スバル㈱、トヨタモビリティ東京㈱、アウディジャパン販売㈱、日産プリンス神奈川販売㈱、ダイハツ東京販売㈱、ニコルカーズ合同会社、山梨スバル自動車㈱、いすゞ自動車首都圏㈱、神奈川ダイハツ販売㈱、宮園輸入車販売㈱

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　有

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：特定非営利活動法人　私立専門学校等評価研究機構　　受審年月：平成26年3月　　評価結果を掲載したホームページURL

当該学科のホームページURL

https://www.neec.ac.jp/department/technology/automobile/first-classmechanics/

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

（A：単位時間による算定）

総授業時数	1,136 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	1,136 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	1,136 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	1,136 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（B：単位数による算定）

総授業時数	単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位
うち必修授業時数	単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	2 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		4 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

国土交通省が定める自動車整備士養成施設の基準に則り、幅広い高度な整備技術能力とビジネス感覚を身に付けた整備技術コンサルタントとしての人材を育成するため、4年間を通しインターンシップを含めた高度な実践的カリキュラムを企業の意見を積極的に取り入れながら計画的に実施、改善していく。また、環境保全や安全管理といった学習を通して、職場、地域に対しても先導的な役割を担うことのできる人材を育成することを基本として、適時編成委員会を開催し、授業内容や学生指導等についてや企業から求められる人材育成を目的として企業ヒヤリングを行い、授業内容の改善を行うとともに、企業等より実習の授業及び教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行う。また自動車メーカー・ディーラー研究会等やインターンシップ時などに企業訪問を行い、企業からの要望をヒヤリングし、実務教育に生かしていく。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。
本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育･学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
石井　秀和	東京都自動車整備振興会八王子支部支部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	①
菅原　和茂	株式会社スズキ自販南東京サービス部　部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	③
井上　晴順	トヨタS＆D西東京株式会社 人財採用サポートオフィス　オフィスマネージャー	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	③
山野　大星	日本工学院八王子専門学校　校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	ー
倉重　明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部　部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	ー
山田　俊之	日本工学院八王子専門学校　カレッジ長	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	ー
坏　裕光	日本工学院八王子専門学校　科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	ー

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）

年2回 （3月・9月）

（開催日時（実績））
第1回　令和5年09月21日　13:30～16:30
第2回　令和6年03月08日　13:30～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
1.2年においては、編成委員の意見はもちろんのこと、自動車関連企業からのヒヤリングを活用し、現代の学生に自動車産業の重要性を伝えるために、各科目担当教員や職実教育連携非常勤講師などから新技術や業界知識の情報発信をし続け、将来自身が働く環境や取り扱う自動車について理解させ、国家資格合格へ向けた意識改革の一つとして取り組んだ。
また、編成委員を含めた産学連携により、2023年度は全13回の企業特別実習(技術講習会)をできる限り行い、専任教員や学生に最新技術に触れる機会を定期的に確保している。
また、3年次就職に向けた活動として、2025年3月卒対象の「ワクドキ企業訪問ツアー」など地域や産業界と連携し実施を計画。
4年次においては、各委員から提案されたプレゼンテーション能力やデジタルリテラシー基礎などの創造的問題解決能力に対して、サービスマネジメント科目などの中で取り組み、インターン実習科目終了後に企業や編成委員、一級自動車整備科在校生の学生に対して、インターン発表プレゼンテーションを実施し、2023年度も同様に開催を計画。また卒業制作においても各自が課題発見・解決を導き、2022年度は「クルマ×足湯=よりみてぃ」というテーマで制作し、ここでも総合型専門学校である本校の特色の一つである他分野での産学連携・コラボレーション能力を十分に発揮し発表した。
今後は整備士の在り方が大きく変わる事を予測し、人財確保での連携を更に強化し、両者が共にミライある若者を育成していくことで合意している。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
赤岡自動車修理工場の赤岡氏、ジョーアンドアソシエイツの内久根氏、ホンダ東京西の星野氏、ダイハツ東京販売の田畑氏、ファーレン九州の山口氏と1，2年各実習にて連携し、現在の整備作業の傾向に合わせ、自動車業界の知識、現場での実践力などの基礎自動車整備技術はもちろんのこと、社会人基礎力や人間力を企業目線において連携しながら指導を行い、産業界が求める人材育成として適切か評価を受けている。また、適時ヒヤリングを行い学科への詳細なフィードバックも行い、日々改善を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
エンジン整備実習1	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	実習車両を使用して、ガソリンエンジンとジーゼルエンジンの整備技術を学びます。	株式会社ファーレン九州
エンジン整備実習基礎1	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	ガソリンエンジン、ジーゼルエンジンの整備技術の基本を、作業を通して学びます。	ダイハツ東京販売株式会社
シャシ整備実習基礎1	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	ブレーキやサスペンションなどのシャシ整備に関する基本技術を、作業を通して学びます。	株式会社ホンダ東京西
自動車整備実習基礎	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	自動車のエンジン整備・シャシ整備・電装整備の基礎的な整備方法を作業を通して学びます。	ジョーアンドアソシエイツ株式会社
電装整備実習基礎1	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	自動車の電気装置に関する電子電気技術の基礎について実習を通して学びます。	株式会社赤岡自動車修理工場

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	自動車メーカー・販社における最新技術セミナー各種	連携企業等：	各自動車メーカー・販売会社
期間：	2023年4月～2024年3月	対象：	一級自動車整備科／自動車整備科　教員
内容	・2023年6月20日（火） 東京都自動車整備振興会多摩支所（国立市）において、東京都自動車整備振興会における「整備主任者技術講習（実習）」受講 ・2023年10月6日（金） 八王子市芸術文化会館（八王子市）において、東京都自動車整備振興会における「整備主任者技術研修（法令）」受講		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	ハラスメント防止研修	連携企業等：	元岡山テレビアナウンサー　豊島ゆり氏
期間：	2023年8月30日（水）	対象：	日本工学院専門学校/日本工学院八王子専門学校専任教員（一級自動車整備科/自動車整備科専任教員）
内容	セクハラ・パワハラを生まない職場づくり		

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	自動車メーカー・販社における最新技術セミナー各種	連携企業等：	各自動車メーカー・販売会社
期間：	2024年4月～2025年3月	対象：	一級自動車整備科／自動車整備科　教員
内容	・2024年7月 東京都自動車整備振興会多摩支所において、令和6年度整備主任者研修 ・2024年度中 八王子キャンパスにおいて、自動車メーカー、販売会社による「自動車技術セミナー」を複数回実施予定 ・2024年11月22日（金） いすゞものづくりサービストレーニングセンターにおいて「いすゞグループメカニズム学習会」開催予定		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	発達障害の理論と最新の話題	連携企業等：	調整中
期間：	2024年度中	対象：	テクノロジーカレッジ専任教員（一級自動車整備科/自動車整備科専任教員）
内容	近年、特別支援教育や障害者支援の現場は「発達障害」という概念を中心に進んでいます。様々なメディアで知られるようになった発達障害は、今なお、多くの研究が行われており、日々新しいことが判明しております。発達障害の基本的な情報に加えて、エビデンスに基づいた支援情報や近年提唱されている支援の考え方について学び、学校・カレッジ・学科・教員単独といった様々な階層での支援方法や現状を検討する事で、より良い学習環境を提供すると共により適切な指導力の向上を目的とする。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。
学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	（1）教育理念・目標
（2）学校運営	（2）学校運営
（3）教育活動	（3）教育活動
（4）学修成果	（4）学修成果
（5）学生支援	（5）学生支援
（6）教育環境	（6）教育環境
（7）学生の受入れ募集	（7）学生の受入れ募集
（8）財務	（8）財務
（9）法令等の遵守	（9）法令等の遵守
（10）社会貢献・地域貢献	（10）社会貢献・地域貢献
（11）国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について
評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用（対応）方法は以下のとおりとなります。

・学生に選ばれるための施策（新規獲得）と教職員の採用、満足度向上など課題が多い中ではありますが、意見交換や連携などをして多摩地域の就職に強い専門学校と多摩地区で必要とされる企業で魅力を伝え、発展をしていければと思います。
・現場の最前線で活躍する地元企業の専門家に講師をお願いし、ターゲットを明確にした授業などを実施してみてはどうでしょうか。
・報告内容にe-ラーニングで就職後に役に立つ学内資格の創設と受験勧奨を実施することと、教諭の待遇改善とコンプライアンス順守などがテーマでしたが、業界により職種と担当業務によって必要とされるスキルが違うので、この資格があれば就職に有利というものを一概にお答えすることはできません。弊社では総合職採用としているので、持っている資格によって配属が決まってしまう可能性もあります。業界内の仕事がもっとスペシャリストを必要とする流れになれば良いのですが、今は何でもできる人が重宝されていることも事実です。
・教員の待遇改善については、先生のレベル・待遇が上がれば授業の質が上がると想像できますので引き続きこの取り組みを継続していただくことに賛成します。
・学生への思いや取り組み、社会のニーズに対応して行こうとされている姿勢に感激しており、マイナス評価をする要因がございませんでした。
・ハラスメントについては組織運営の中で非常に重要な部分であり、時代の流れや環境の変化に対応したコミュニケーション能力が求められると思います。教員と学生となると育ってきている時代背景が全く異なり、価値観や考え方もその時代の影響が根本にあるかと思います。また職員同士も同様です。貴校ではハラスメント研修を実施しているかと思いますが、それが貴校全体に広まって行けば良いかと思います。ただハラスメントを重要視し過ぎてしまい、変な勘違いをしたり、萎縮したりして、何でもかんでもハラスメントと訴えてこないような状況にして頂ければと思います。バランスが難しいかと存じます。
・コロナ禍がスッキリ明けたと言えない状況ですが、コロナ禍の真っ只中で授業を受けられていた学生と、新入生とモチベーションのズレが今後出てこなければ良いかと思います。教職員の皆様もコロナ前に戻る回復力が大変ではないかと察します。日本工学院八王子専門学校が第一志望の学校となるよう微力ではございますが、何なりとご相談いただければと思います。
・全体的に特記事項については、過去3カ年ぐらいの実績が書かれていれば良いかと思います。それ以上前のことが書かれていると進化が止まっているような印象を持ちますので、もし記載するのであれば、改善、実施した結果が書かれていると良いと思います。
・教職員研修は、実施されると思いますがこれからもどうか業務として認めていただけることも合わせてお願いします。しかし自己研鑽という形ですまさないようお願いします。
・保護者会は今後も対面、オンラインなどハイブリット式を継続していただければと思います。
・毎回ご説明を伺うたびに着実に学校運営を進展されていることに敬意を表したいと思います。殊にコロナ禍における授業のあり方について学生の要望に沿った改革を着実に図っていることは学ぶ側に取ってとても有難いことかと思われます。また会議の折にもお話いたしましたが対面授業とオンライン授業のハイブリッドにおいて如何に学生とのコミュニケーションを取るかについてはご苦労された成果がよくわかりました。ただフィードバックのやりすぎということは無いかと思いますので更なる取り組みを期待しています。高等教育機関の多くが学生募集に苦慮している昨今、選ばれる学校としての特色づくりに精励されているお話も大いに評価されるべきところです。益々のご発展を期待して次回にうかがえることを楽しみにしております。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の5点について検討し活用する。

1. 社会のニーズに対応するため、新設学科の検討を行う。
2. 第一志望の学校に選ばれるため教育の質の向上を図る。そのため教員の業務負担の軽減、教育研修の実施、研究授業等に取り組んで行く。
3. 企業連携を強化し、地元企業で活躍する実務者に講義を行ってもらい、専門教育の充実を図る。
4. 教職員がコンプライアンスの大切さを理解し、学校ハラスメント防止に徹底した取り組みを行う。
5. 教職員の満足度調査を引き続き実施し、問題点の洗い出しを行い、満足度向上を目指す。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
森　健介	順天堂大学　非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	学校関連
金子　英明	日本工学院八王子専門学校　校友会会長 (ｾﾝﾄﾗﾙｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ株式会社)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生／企業等委員
細谷　幸男	八王子商工会議所　専務理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	地域関連
山本　哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター　総務部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
今泉　裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会　事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
才丸　大介	株式会社カオルデザイン 取締役　マーケティング戦略室　室長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
矢野　俊宏	株式会社田中建設　取締役　営業本部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
池田　つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会　理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
石川　仁嗣	医療法人社団　健心会　みなみ野循環器病院　事務長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(　　))
URL:　URL:https://www.neec.ac.jp/public/
公表時期:　令和6年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。
また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園　財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価、令和5年度の項目別の自己評価表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(　　))
URL:　URL:https://www.neec.ac.jp/public/
公表時期:　令和6年9月30日

授業科目等の概要

	（工科技術専門課程 一級自動車整備科）																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネススキル1	仕事についての基礎知識などを養い、ビジネス能力を総合的に高めるために学習します。	1・前	40	2		○		○		○		
2	○			資格対策講座	各種資格の合格へ向けた講座です。	1・通	24	1		○		○		○		
3	○			自動車技術	自動車を構成しているエンジン・シャシ・電子電気装置の部品・構造・機構・動作原理について学びます。	1・後	80	5	○			○		○		
4	○			自動車基礎	自動車の仕組み・構造・構成部品についての基礎を学びます。	1・前	128	8	○			○		○		
5	○			自動車整備機器	自動車整備に使用する機器工具及びその使用方法について学びます。	1・前	32	2	○			○		○		
6	○			自動車整備基礎	自動車のエンジン整備・シャシ整備・電装整備の基礎を学びます。	1・後	72	4	○			○		○		
7	○			工作実習	金属加工を通して、その性質や加工方法を学びます。	1・前	32	1			○	○			○	
8	○			測定実習	自動車整備で必要な計測を、測定作業を通して学びます。	1・前	48	1			○	○			○	
9	○			エンジン整備実習基礎1	ガソリンエンジン、ジーゼルエンジンの整備技術の基本を、作業を通して学びます。	1・前	80	2			○	○			○	○
10	○			エンジン整備実習基礎2	ガソリンエンジン、ジーゼルエンジンの整備技術を、作業を通して学びます。	1・後	80	2			○	○			○	○
11	○			シャシ整備実習基礎1	ブレーキやサスペンションなどのシャシ整備に関する基本技術を、作業を通して学びます。	1・前	80	2			○	○			○	○
12	○			シャシ整備実習基礎2	ブレーキやサスペンションなどのシャシ整備に関する技術を、作業を通して学びます。	1・後	80	2			○	○			○	○
13	○			自動車整備実習基礎	自動車のエンジン整備・シャシ整備・電装整備の基礎的な整備方法を作業を通して学びます。	1・通	80	2			○	○			○	○
14	○			電子制御実習基礎	自動車の電子制御技術の基礎を実習を通して学びます。	1・通	56	1			○	○		○		
15	○			電装整備実習基礎1	自動車の電気装置に関する電子電気技術の基礎について実習を通して学びます。	1・前	80	2			○	○			○	○
16	○			電装整備実習基礎2	自動車の電気装置に関する整備技術の基本を、作業を通して学びます。	1・後	80	2			○	○			○	○
17	○			国家2級合格講座	二級自動車整備士国家試験合格へ向けた講座です。	2・後	24	1		○		○		○		
18	○			自動車工学	自動車のエンジン・シャシ・電子電気装置などの動作原理と部品について詳しく学びます。	2・前	104	6	○			○		○		
19	○			自動車整備技術	エンジン・シャシ・電子電気装置の整備方法を学びます。	2・前	64	4	○			○		○		
20	○			自動車総合技術	最新の電子制御技術など自動車に搭載されている技術について総合的に学びます。	2・後	72	4	○			○		○		
21	○			自動車検査基礎	自動車の検査方法の基礎を学びます。	2・後	24	1	○			○		○		
22	○			自動車整備法規基礎	自動車整備に関する法規の基礎を学びます。	2・後	24	1	○			○		○		
23	○			エンジン整備実習1	実習車両を使用して、ガソリンエンジンとジーゼルエンジンの整備技術を学びます。	2・前	80	2			○	○			○	○

	（工科技術専門課程 一級自動車整備科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
24	○			エンジン整備実習2	実習車両を使用して、ガソリンエンジンとジーゼルエンジンの整備技術を、より実践的に学びます。	2・後	80	2			○	○			○	○
25	○			自動車総合整備実習	実習車両を使用して、総合的な整備作業について学びます。	2・通	96	3			○	○			○	○
26	○			シャシ整備実習1	実習車両を使用して、ブレーキやサスペンションなどのシャシに関する整備技術を学びます。	2・前	80	2			○	○			○	○
27	○			シャシ整備実習2	実習車両を使用して、ブレーキやサスペンションなどのシャシに関する整備技術を、より実践的に学びます。	2・後	80	2			○	○			○	○
28	○			電子制御実習	自動車のエンジン・シャシを制御する電子制御の原理を具体的に学びます。	2・通	32	1			○	○		○		
29	○			自動車総合整備	自動車の検査方法の基礎を学びます。	2・後	72	4	○			○		○		
30	○			自動車検査実習	実習車両を使用して、自動車検査作業について学びます。	2・前	56	1			○	○		○		
31	○			電装整備実習1	実習車両を使用して、自動車の電気装置に関する部品の特性を理解することと、その電子制御i装置の整備技術を作業を通して学びます。	2・前	80	2			○	○			○	○
32	○			電装整備実習2	実習車両を使用して、自動車の電気装置に関する整備技術を、より実践的に学びます。	2・後	80	2			○	○			○	○
33	○			キャリアデザイン	就職活動への準備を行い、自動車企業研究を経て進路について考えます。	3・後	80	5		○		○		○		
34	○			電子制御技術	ガソリン・ジーゼルエンジン・シャシ分野の最新電子制御について学びます。	3・前	56	3	○			○		○		
35	○			高度整備技術	ガソリン・ジーゼルエンジン・シャシ分野の最新電子制御整備技術について学びます。	3・前	56	3	○			○		○		
36	○			高度総合診断整備技術	最新の故障診断器を使用した振動・騒音を含めた複雑な故障診断技術について学びます。	3・後	56	3	○			○		○		
37	○			自動車検査技術	道路運送車両法の保安基準・自動車検査の詳細を学びます。	3・後	16	1	○			○		○		
38	○			自動車新技術	ハイブリッド車・CNG車・筒内噴射式エンジン・CVT・ブレーキ・スリップ・姿勢制御等の制御技術について学びます。	3・後	40	2	○			○		○		
39	○			自動車整備法規	自動車整備に関する法規及び通達の詳細について学びます。	3・後	16	1	○			○		○		
40	○			環境保全・安全管理	資源の有効利用・産業廃棄物処理・汚染物質・工場騒音・工場振動に関する環境保全方法と災害防止・防火・防災・救急処置について学びます。	3・後	56	3	○			○		○		
41	○			整備機器取扱技術	整備支援機器・高精度計測機器・自動車検査機器取扱い方法を深く学びます。	3・前	16	1	○			○		○		
42	○			応用エンジン整備実習	電子制御技術搭載の実車のエンジンの点検・分解・組立・調整・検査を実習します。	3・前	160	5			○	○			○	
43	○			応用測定工作実習	エンジン出力・駆動力やセンサの特性等の測定作業、手作業・旋盤・フライス盤・溶接などによる金属加工作業を実習します。	3・前	24	0			○	○		○		
44	○			応用自動車検査実習	自動車検査員レベルの検査実習をします。	3・後	24	0			○	○		○		
45	○			応用シャシ整備実習	電子制御技術搭載の実車のシャシの点検・分解・組立・調整・検査を実習します。	3・前	160	5			○	○			○	
46	○			応用総合整備実習	最新技術搭載の実車を総合故障診断して整備する実習を行ないます。	3・後	160	5			○	○		○		

	（工科技術専門課程 一級自動車整備科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
47	○			応用電装整備実習	実車の電子制御装置の点検・分解・組立・調整・検査を実習します。	3・後	160	5			○	○			○	
48	○			国家1級合格講座	一級自動車整備士国家試験合格へ向けた講座です。	4・後	24	1		○		○		○		
49	○			サービス・マネジメント	販売士・顧客管理・顧客対応技術・整備見積書作成技術について実習します。	4・前	176	5			○	○		○		
50	○			総合実務実習1	整備実務を通して顧客管理・顧客対応技術・整備見積書作成技術について実習します。	4・前	68	2			○	○		○		
51	○			総合実務実習2	高効率整備作業マニュアル作成・高難度故障原因探求作業・総合診断作業を実習します。	4・後	544	18			○	○		○		
52	○			インターン実習	自動車の点検整備・故障原因探求・総合診断の整備と接客実務を企業で実体験します。	4・前	224	7			○		○	○		
合計					52 科目			4236時間 単位（単位時間） 152単位									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：卒業時に必修科目4236時間(152単位)および選択科目0時間(0単位)以上取得し、合計4236時間(152単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2 期
履修方法：3年次進級時には、上記授業時間を履修し、かつ二級ガソリン自動車整備士と二級ジーゼル自動車整備士の両方の合格証書を3年次進級後3ヶ月以内に交付されなければならない。	1学期の授業期間	20 週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。